

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第197号

[2024年1月31日発]

新年のご挨拶

薬局長 黒沢雅広

謹んで新春の祝詞を申し上げます。

昨年は関係各方面から格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

先ずは、2024年の元旦に発生した、能登半島での大震災により亡くなられた方々のご冥福を深くお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さまにお悔やみ申し上げます。また被害に遭われたすべての皆さま、そのご家族及び関係の皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。被災地域の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

地震発生当日、私は家族とテレビを見ておりました。そこに、緊急地震速報が流れだし、和やかだった家族の雰囲気も一変しました。東北地方出身の私は、2011年3月11日に発生した東日本大震災を思い出し、「酷いことにならなければ良いのだけど…」とっておりましたが、やはり自然の力は人間の想像をはるかに超えて襲い掛かってきました。幸い津波の被害は東日本大震災までには至りませんでした。家屋の倒壊、崖崩れ、ライフラインの寸断などは報道を見る限り匹敵しています。今、私たちに出来ることは何だろうか？と考えると、直ぐに現地に入って人的支援をすることや支援物資を送ることを考えてしまいがちですが、私のような素人が現地に行っても何の役にも立ちません。また、支援物資に関しても被災者が必要なものが分からない状態で物資を送ってはいけません。被災地の状況と必要な支援が明確になるまでは、焦る気持ちを落ち着かせて、募金活動に参加することが良いと考えます。

昭和大学では、東京都の要請に応じて災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣して、医療支援を始めました。また、現在私たち烏山病院でも精神科病院という機能を活かし災害派遣精神医療チーム（DPAT）を編成して、被災者のこころを支える準備（待機）をしています。

本学の建学の精神は「至誠一貫」です。これは、「常に相手の立場に立ってまごころを尽くす」ことを意味しています。支援の仕方は十人十色です。私は教育職員という立場から社会に貢献する優れた医療人を育成することで、被災地支援に貢献できればと考えています。

本年も烏山病院は周辺地域の皆様の精神保健の向上を目指して取り組んで参ります。変わらぬご支援と忌憚のないご意見をよろしくお願い致します。



ギャンブル依存症研修

昭和大学医学部精神医学講座 准教授 常岡 俊昭

12月15日16日と当院でギャンブル障害（いわゆるギャンブル依存症）への治療法や関わり方の研修が行われました。当院はギャンブル障害の治療拠点病院となっていて東京都の普段ギャンブル障害と関わる方々への研修を行う事が期待されており、院内のスタッフ・院外の普段連携させてもらっている方々をお願いして当院に集まってもらい（一部オンライン）顔の見える関係性を作りながら1日半様々な立場からディスカッションを行いました。

研修には合計21名が参加されました。講師陣も当院スタッフ以外にも国立精神神経センターの松本先生をはじめ、ライフサポートクリニック、三光病院（香川県）、ギャンブル依存症問題を考える会、中部センター、弁護士など10名の様々な立場の方々が自身の立場から講義を行いお互いの意見交換を行いました。当院からも塚越看護師・西田看護師が入院した場合の看護スタッフの関りを、藤沢OT・熊谷OTが当院での作業療法や認知行動療法について、石山精神保健福祉士がギャンブル障害に対して使える社会資源について話して頂き、多くの講師陣・受講者から当院の自助グループとの関りや遅くまでの外出を許可出来ている点などを評価頂きました。また普段一緒に働いているスタッフがどのような行動をしているかは知っていても、どのような想いで動いているかをあら改めて知る良い機会になりました



し、この熱意をもって依存症に対応してくれるスタッフの存在が烏山の宝だな～と悦に浸っていました。

当院は薬物依存症・ギャンブル障害の依存症治療拠点病院に選定されています。これからも前例や慣例・他の病院のやり方に囚われずに、患者さんのために良いと思われる事を率先して取り入れて行っていければと思っています。今後ともよろしくお願いします。

【ご紹介】クリスマスの行事食について

栄養科

12月のイベントとして、クリスマスが1つにあげられます。骨付きチキン、スポンジケーキなどのメニューの要望がご意見箱によせられています。しかし、当院では、患者さんの特性上、骨を誤飲してしまう、一口量の調節が難しい、咀嚼回数が少ない、丸のみ、詰め込み食べにより、窒息リスクが高いメニューは、残念ながら、規則として提供が出来ません。



しかし、少しでもクリスマスを感じていただけるように、25日の昼食時に、鶏肉料理、パプリカを使用した彩の良いサラダ、イチゴのパバロアを提供いたしました。

烏山病院メッセージ続いています

A3 病棟看護師

ASK 依存症予防教育アドバイザー 塚越拓美

2022年5月20日（金）より毎月第3金曜 19:30～21:00、Young&Sober（YnS）と病院メッセージを続け、2024年1月までに21回開催されています。

病院メッセージとは「自助グループを通して飲まない生き方を実践しているメンバーが、全国津々浦々の病院や施設でその経験をメッセージとして病院に運び続ける」ことを言います。テーマは「孤独からの解放」で、「生きづらさを抱えている方」ならどなたでも参加OKです。オンラインなので世界中から毎回100名を超える方が参加してくださっています。

前半40分はメッセージ、後半は質疑応答を実施しています。これが大盛況！時間を調整するのに必死です。患者さんだけでなく、スタッフも質問をし、私たちが日々支援する上での悩みにも答えてくださいます。

アンケートも30枚以上集まります。A4用紙の裏と表にびっしり記載していたり、絵を描いてくださったり、中には手厳しい内容もあったりしますが、正直に記載してくれているんだと思います、共有させてもらっています。

「風通しをよくしたい。おもてなし」目的で毎月メッセンジャーとスタッフで雑談を兼ねた打ち合わせもしています。私は「患者さんは病気から回復できるのか不安です。ぜひみなさんの回復ストーリーを包み隠さず話してください。タブーはありません。患者さんはとても優秀なのでメッセージからたくさんのごことを吸収してくれます。服装も裸でなければなんでも大丈夫です」とお伝えしています。

今日まで病院メッセージを続けてこれたのは、メッセージが「素晴らしい」からの一言です。この「素晴らしい」メッセージを一度聞くと虜になり、患者さんは他の患者さんを誘ってくれます。AAメンバーも宣伝をしてくれています。運営スタッフも他のスタッフに声をかけてくれています。退院後の患者さんも参加してくださっています。これは私の密かな楽しみです。

まだ参加したことがない「生きづらさを抱えた方」は「孤独から解放」されに参加してみてください。お待ちしております。



ALCOHOLIC ANONYMOUS
X
烏山病院メッセージ



アルコール依存症予防教育アドバイザー 塚越拓美

AAの病棟メッセージとは

AAの目的
私たちの本来の目的は、飲まないで生きていくことであり、ほかのアルコール依存症を飲まない生き方を 達成するように手助けすることである。
あるアルコール依存症予防教育アドバイザー（以下表記AA）の各グループは、今更しんであるあるアルコール依存症予防教育アドバイザーを運営の目的とした、重なる共同団体であるべきである。
アルコール依存症予防教育アドバイザー

2人のアルコール依存症予防教育アドバイザーの創始者、ビルWとDr.ボブが苦しむアルコール依存症患者を米国アクリントン州立病院に初めて訪ねた時から、現在までAAを通して「飲まない生き方」を実現しているメンバーが、全国津々浦々の病院や施設でその経験をメッセージとして運び続けています。

参加対象者
疾患問わず「生きにくさ」を抱えている当事者、家族、パートナー、友人、支援者など

ZOOM
ID:886 1938 6526
PASS:726070

日時
毎月第3金曜日19:30～21:00
参加希望/お問い合わせ先
youngandsobers2021@gmail.com

架け橋プロジェクト報告

精神保健福祉士 水野 有紀

会いに行っちゃう精神科「架け橋プロジェクト」が2022年6月に始まって1年半が経ちました。架け橋チーム（常岡医師、塚越看護師、安藤薬剤師、菅野看護師、木下看護師、月替わりの若手医師、PSW水野）が練馬光が丘病院の総合診療科外来でお会いした患者さんは69名、そのうち21名がその後に烏山病院で治療に取り組まれています。つながったのがたったの三割？と思われるかもしれませんが、でもでも。この21名は私たちが出向かなければ、おそらく精神科の門をくぐることはなかった方たちです。そして一期一会だった48名も「精神科の人たち、イメージと違って面白い人たちだったな」と思ってくれたとしたら、今後本当に困ったときにはきっと精神科を受診してくれると思います。依存対象を「やめたいけれどやめられない」でも「やめろと言われたらやめたくない」…そんな患者さんの気持ちや辛さを少しでもわかりたい、なにか力になりたい、と思っている医療者が精神科にはいるということ、そして回復している仲間がいるということをもっと多くの困っている方やご家族に知ってもらいたいと思っています。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～金曜日・8時30分～14時

土曜日 8時30分～12時

◎休診日：日祭日・本学創立記念日・年末年始

《12月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8555(8,297) 6.662(6.331)

◇一日平均患者数 276.0(276.6) 277.6(275.3)

◆診療実日数 31(30) 24(23)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp



となります。

こちら当院のホームページのQRコードとなります。

ぜひご覧ください。



【編集後記】

新年明けましておめでとうございます。皆様お正月はいかがお過ごしでしたか？

私は、コロナも落ち着いてきたため久々に親戚一同が集まる事が出来ました。人数も多く、年越しそばやお雑煮を大量に作って過ごしたので、楽しくも忙しく、あっという間に大晦日から年明けを過ごしました。

2月に向け更に冷え込んで参りますので、体調管理に努めていきましょう！



(広報委員 熊谷)